

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	規則性無機ナノ空間の特性を活かした新しい機能空間化学の開拓	研究代表者名	岩本 正和
-------	-------------------------------	--------	-------

該当箇所()に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア() 高い
- イ() やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
新しい特殊な反応機構が発現しているなど、不均一系触媒反応を飛躍的に発展させる可能性があり、必要性は高い

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ() 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
研究計画は順調に遂行されている。更に本質的な理解に進むとよい。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ() 組 織
- エ() そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア() 期待以上の成果をあげている
- イ() 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
均一系触媒反応が、様相を変えて不均一触媒反応系でも観測されるなど、興味深い結果が得られている。今後は更に、別の観点の導入などが期待される。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア () 有機的に連携が保たれている
- イ () あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ () その他

意見：
チームを組んで上手に運営している。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア () 効率的・効果的に使用されている
- イ () あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ () その他

意見：
問題はない

6 研究課題の総合的な評価

該当欄	評価結果
A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

規則性ナノ空間、機能空間化学という新しい概念の元に多くの興味深い現象が蓄積されていて、今後の発展が期待される。ナノ空間の意義が明確にされると更に素晴らしいので、その方向の努力が望まれる。欲を言えば、機能空間という概念をより明確にするためにも、均一系触媒反応にない触媒反応をみつけてほしい。